

商店街再生と小売機能

都市に住んでいる人々に消費財を届けるという小売機能は、都市の経済的機能の中でも重要なものです。その小売機能を担っているのが、かつては駅前の商店街であり、今では経済の成長とともに変化・発展してきた様々な小売業です。大学の講義では、それを小売業態の変化という言葉で説明します。

この小売業態の成長・発展は、小売業間の競争によってもたらされたものですが、消費者の生活スタイルの変化にも大きく影響を受けています。例えば、大都市における生活時間や働く時間の長時間化は深夜営業の小売店を生みます。それがそのうち24時間型の業態へと成長していくのです。この業態の発展はまた人々の生活スタイルを変化させます。影響を与えるのはもちろん営業時間だけではありません。

例えば、コンビニです。コンビニは早くからおにぎりや弁当などを充実させてきました。しかも24時間営業ですから、いつでも空腹を満たすことができます。おなかが減ったらコンビニへ、というわけですね。このことで私たちの生活はどう変わったのでしょうか。24時間開いている店がない時代には、夜中におなかが減れば、我慢するか家にあるものですませるかありません。あるいは、夜中におなかが減らないようにしっかりと夕食を食べると。でも、今では近くにコンビニさえあればすぐ食料を調達することができるので、冬なら夜中におでんが食べたくなったりするのです。これまではそんな欲求が生まれることはなかったのではないのでしょうか。このように小売業態の変化は私たちの生活スタイルはもちろん、欲求のあり方で変えてしまうのです。

この生活スタイルと小売業の相互依存的な変化について行けないと、業態としては衰退していくほかありません。商店街も残念ながらその一つになりつつあります。営業時間も商品の取り揃えやいろんなサービスも他の業態＝競争相手には敵わないからです。もちろん、商店街は小売機能だけではなく他の重要な社会的機能を担っている、というのも事実でしょう。しかし、商店街が地域で必要とされるのは小売機能を担いながら他の機能も果たしている、いやむしろ小売機能を担っているからこそ地域での他の役割が付随してくるのであって、その本丸たる小売機能が機能不全に陥っているとすれば、商店街の存在意義を改めて問い直す必要があるでしょう。

では、商店街の再生は不可能なのでしょうか。中心市街地の、とくに地方都市での衰退が進みつつある現在、商店街は都市における小売機能を回復させる業態としてチャンスはあるはずです。ただし、以前とは大きくその姿を変える必要があります。ひょっとしたら、それはお金をかけない身の丈にあった再開発かもしれませんし、物販は他の業態にまかせてサービスを売り物にするような新しい商店街かもしれません。いずれにしても、今までにはない発想と知恵がそこには求められるでしょう。

市街地という一等地にある商店街は、その有効な土地利用という観点からも大胆な変化が不可欠なのです。そこには小売機能を含んだ都市機能の再構築という大きな課題が横たわっているということを肝に銘じたいものです。(三谷 真)